

岡山市立中央図書館開館30周年記念展示

岡山市立図書館の 古文書あれこれ

主な展示品紹介

期間 平成25年10月18日（金）～11月9日（土）

場所 岡山市立中央図書館2階展示コーナー

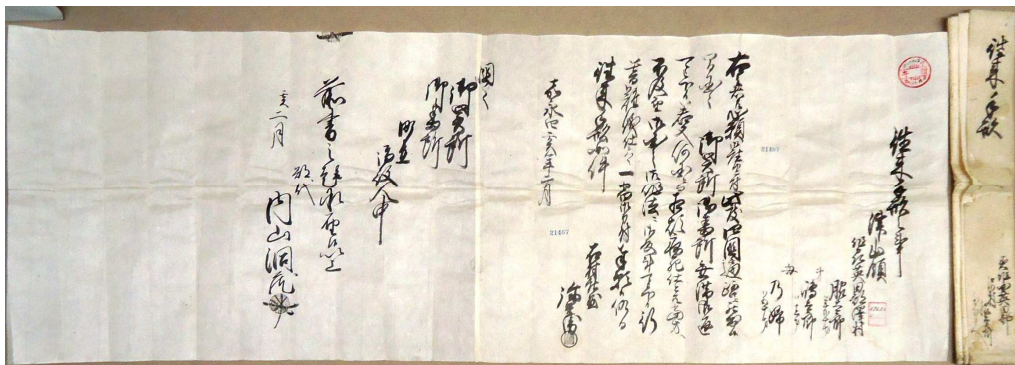
この展示全般について、在間宣久氏（岡山大学非常勤講師、前・岡山県立記録資料館館長）にご協力をいただきました。

テーマ1 江戸時代の旅人の記録

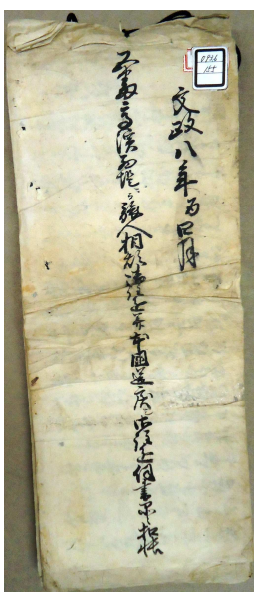
資料① おうらいてがた 往来手形

江戸時代の庶民は、伊勢神宮、金比羅宮参詣、四国八十八カ所巡拝など、寺社参詣の旅をたどりました。ただし、自由に出かけることはできず、田畑の耕作はもとより留守中の役目などが停滞することのないよう手当てした上で、許可を願うという所定の手続きを要しました。そして下付された往来手形を携行しなければなりません。往来手形には、住所・氏名・宗旨・旅の目的などが記され、関所や番所役人、村役人などへ宛てて、庄屋、旦那寺などが発行しました。

展示している往来手形は、あいだぐんさわむら英田郡沢村（現・美作市）の脇太郎、弟・嶋太郎、母・乃婦の三人が四国遍路に出かけた時のものです。関所、番所の通行許可を求めるとともに、もし旅先で行き倒れた場合には、その場所で埋葬してほしいと依頼しています。



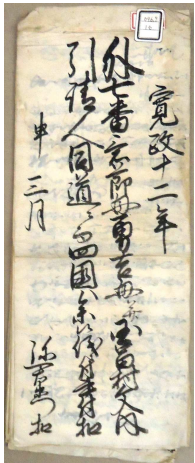
資料② たびびとびょうしごちゅうしんどめ 【旅人病死御注進留】（藤原文庫）



この綴りは、旅人の保護に関して藩へ報告した「御注進留」計 ごちゅうしんどめ 15冊をまとめたものです。最初の表書き「ごぼんたかはまにしづつみにて五番高浜西堤二而 たびびとあいわずらいごちゅうしんならびにほんごくおくりもどしごちゅうしんうかがいしよしなひかえちよう旅人相煩御注進並 本国送戻シ御注進伺書品々控帳」(五番は現・岡山市東区光津)では、「むらつきおく村継送り」を希望した旅人を駕籠に かご 乗せ、伊勢国まで村から村へ継いで送り返した事例です。

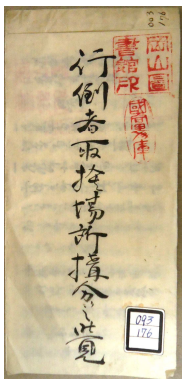
あとの事例のほとんどは、死亡したため村の墓地脇に埋葬したものです。藩からの指示により、村では医者に見せ、服薬させ、食事を与えて丁寧に介抱しています。また、本国へ事の次第を記して通知していたようです。

資料④ そとしちばんいせつのははゆうきちのははならびにくにとみむらぶんないひきうけにんどうどう に て しこく へ まいりそうろう ぎ に つきかきつけ 外七番意節母勇吉母 並 国富村文内引請人同道二而四国へ参 候 儀ニ付書付
ひかえ 控 (藤原文庫)



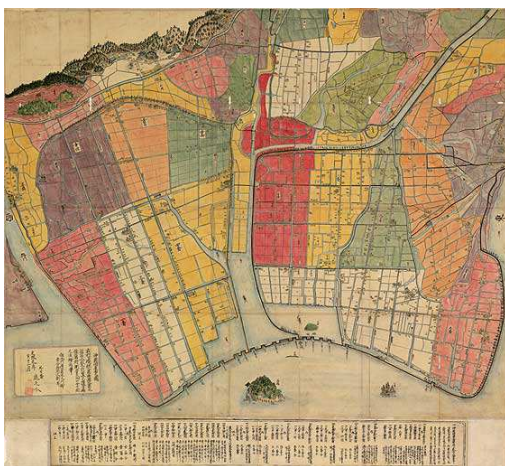
沖新田外七番（現・岡山市東区升田・豊田）の意節いせつの母ら4人が四国巡拝に出かけましたが、予定の期日を過ぎても帰ってきませんでした。実は、一行の一人が病気で死亡していたのです。そこで、親類の者が四国まで様子を見に行き、残りの者を連れて帰りました。岡山からの旅人が他国で死亡した一例です。

資料⑩ いきだおれものとりすてばしよかまえわりの おぼえ 行倒者取捨場所構分り之覚 (国富文庫)



岡山城下で行き倒れがあった場合に、その処置を町方まちかた、村方むらかた（在方ざいかた）のどちらが担当するかの決まりを記しためずらしい帳面です。特に、町と村との境について、用水や道幅の半分を境とするなどの細かな取り決めをしています。また、村方は郡代ぐんだい、町方は町奉行まちぶぎょうを責任者とし、その配下の処置担当者も決められているなど、藩組織を挙げて行き倒れなどの対策に取り組んでいることが分かります。

資料⑪ おきしんでんとうざいの ず 沖新田東西之図 (岡山市指定重要文化財)



沖新田は、備前国上道郡沖に干拓によって築かれた岡山藩の藩営新田です。

藩主池田綱政いけだつなまさから命を受けた津田永忠つ だながただが、元禄5（1692）年正月に着工、7月には堤防が完成しました。東西約7 km、南北約3 km、造成面積約1,918ヘクタール、堤を一番から九番までの工区に分けて競わせる形で工事が進められました。
 三幡さんばん、九幡くばんなどの地名はその名残です。

「沖新田東西之図」は、文政元（1818）年に沖

しんでんそとしちばん 新田外七番在住の鹿之介によって描かれました。旧三幡村さんばんむらに伝来し、同村が岡山市に合併したときに、岡山市に移管され、岡山市立図書館で保管してきました。

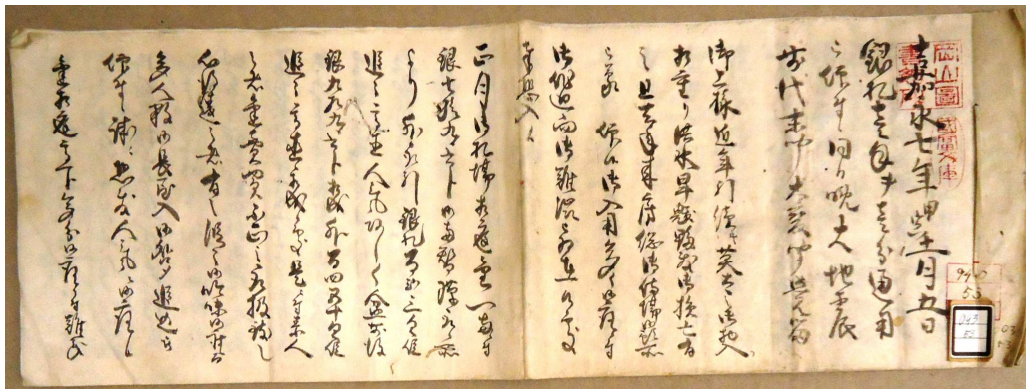
テーマ2

安政南海地震・昭和南海地震の記録

資料⑭ 嘉永七年甲寅十一月五日銀札壱匁ヲ壱分通用被仰付候同日晩大地震
か えい しちねん きのえ とら じゅういちがついつか ぎんさついち もんめ を いちぶ つうよう おおせつけられそうろう どうじつ ほん おおじしん
 前代未聞大變聞覚留 (国富文庫)
ぜんだいみもんたいへんききおぼえとめ

地震の当日(旧暦11月5日)午後2時頃、岡山藩では財政窮迫による藩札(紙幣)の価値暴落のため、藩札の兌換停止(モラトリアム)を発表したので、群衆が札場(藩の銀行)に押しかけて大騒ぎになりました。打ち壊し一歩前の状態でしたが、ちょうどその時地震が起こり、札場周辺を埋めていた群衆は神社や寺の境内、河原へ逃げました。余震が続く家中に居ることもできない状態で、厳しい寒気の中、広場に小屋がけしたり船で過ごしたりしました。

(蓬郷巖『岡山の災害』(岡山文庫)、片山新助『近世岡山町人の研究』(楓亭文庫)より)



資料⑭ 罹災救助ニ関スル書類綴、
 資料⑮ 災害救助ニ関スル文書綴 (三幡村)

資料⑱ 災害救助隊関係、
 資料⑲ 震災復興記録 (芳田村)



⑭：罹災救助基金法による救助の内容をはじめ、三幡村での救助費用請求など具体的な救助活動がうかがえます。

⑱：地震発生以後の行政の活動を知ることのできる資料です。特に村内各地域毎に綴られた震災害申告表は、地震被害を個別に詳細に伝えています。

テーマ3 岡山藩の地誌

資料① 備前記



岡山藩の郡奉行を四十年間勤めたいしまるへいしちろうさだよし石丸平七郎定良によって、元禄13(1700)年から元禄17(1704)年にかけて編集された地誌です。村々の様子が村ごとに統一された形式のもとに記述されています。

内容は、村の立地、枝村名、城下への距離、石高、田畠畝数、家数、男女の人数、位置、神社、寺院、古城、古墓、古寺跡、古屋敷、いわれのある地名、民間伝承の旧記・感状・書状、名所などです。

石丸はこの備前記をもとに、備陽記を編纂したと考えられています。村ごとの地誌という点からは、備陽記よりもこの備前記の方がわかりやすいと言えます。

岡山市立中央図書館の所蔵本は、9巻9冊の転写本です。医学者高橋金一郎氏(1866-1919)のコレクションで「高橋文庫」の蔵書印があります。

資料② 備陽記



石丸平七郎定良によって、享保6(1721)年に完成された、岡山藩領初めての本格的な地誌で、以後の地誌に大きな影響を与えました。石丸が奉行在任中に収集した村ごとの資料をもとに事項別に分類編成してあり、資料的価値の高いことから、備前地方史研究の第一の手引書となっています。

また、彩色絵図を構成内容に加えている点も特筆されます。巻24の山陽道・作州往来は、沿道の地形や集落の景観描写がなされ、記録的に価値の高いものとなっています。このような絵図採録形式は、岡山藩ではのちのち吉備温故

ひろく 秘録、撮要録にも受け継がれました。

岡山市立中央図書館の所蔵本は、池田家文庫本を底本とする合本16冊の手書本(八丹幸八氏筆写)です。この本をもとに、日本文教出版より復刻本が刊行されています。

資料③ ^{きつようろく}撮要録



岡山藩庁の留帳方^{とめちようがた}で、郡政の参考資料として、行政文書をもとに、山林・海河池・舟楫橋・墾田・塩田・地方・番所・役所・諸職・工商・寺社などの項目に分類して編集したものです。岡山藩政初期から文政6（1823）年までの30巻、文政7（1824）年から明治元（1868）年までの後編9巻から成っています。岡山藩農村関係の江戸時代全期にわたる体系的な資料集として、きわめて利用価値の高い文献です。

岡山市立中央図書館の所蔵本は、池田家文庫本を底本とする39巻38冊の手書本（八丹幸八氏筆写^{はったんこうはち}）です。この本をもとに、日本文教出版より復刻本が刊行されています。

（資料①～③について：中野美智子『岡山の古文献』（岡山文庫）より）

岡山市立中央図書館開館30周年記念展示「岡山市立図書館の古文書あれこれ」展示リスト

(テーマ1) 江戸時代の旅人の記録	⑤大地震潰家書上帳(上道郡沖新田六番)(藤原文庫)
①往来手形	⑥大地震潰家書上帳(上道郡沖新田内七番)(藤原文庫)
②〔旅人病死御注進留〕(藤原文庫)	
③〔旅人病氣保養始末御注進〕(藤原文庫)	⑦児島郡興除新田内尾潰家御差別願上帳(藤原文庫)
④外七番意節母勇吉母並国富村文内引請人同道ニ而四国へ参候儀ニ付書付控(藤原文庫)	⑧児島郡興除新田内尾潰家御差別願上帳(藤原文庫)
⑤外七番墓所地蔵堂ニ而旅人相果候御注進並御指紙堀埋書上共(藤原文庫)	⑨児島郡興除新田内尾潰家御差別願上帳(藤原文庫)
⑥外七番仁三郎妻倅同村佐介妻四国ニ而同行相別吟味書付控(藤原文庫)	⑩児島郡興除新田内尾潰家御差別願上帳(藤原文庫)
⑦沖新田外七番九番両村境沖堤ニ而旅人致病死始末御注進留(藤原文庫)	⑪嘉永七年甲寅十一月五日銀札老夕ヲ老分通用被仰付候同日晩大地震前代未聞大變聞覚留(国富文庫)
⑧九番ニ而豆州那賀郡田子村吉蔵病死御注進写(藤原文庫)	⑫地震書上(国富文庫)
⑨九番ニ而旅人病死御注進並往来手形共写(藤原文庫)	⑬地震ニ而潰家怪我人其外所々損シ所書上(国富文庫)
⑩行倒者取捨場所構分り之覚(国富文庫)	⑭罹災救助ニ関スル書類綴、⑮災害救助ニ関スル文書類(三幡村)
⑪沖新田東西之図(岡山市指定重要文化財)	⑯南海震災応急援護関係綴(沖田村)
(テーマ2) 安政南海地震・昭和南海地震の記録	⑰震災関係綴(大野村)
①大地震潰家書上帳(上道郡沖新田一番)(藤原文庫)	⑱災害救助隊関係、⑲震災復興記録(芳田村)
②大地震潰家書上帳(上道郡沖新田三番)(藤原文庫)	⑳震災関係書類綴、㉑震災関係書類(藤田村)
③大地震潰家書上帳(上道郡沖新田四番)(藤原文庫)	(テーマ3) 岡山藩の地誌
④大地震潰家書上帳(上道郡沖新田五番)(藤原文庫)	①備前記(転写本9冊)
	②備陽記(八丹幸八手書本16冊)
	③撮要録(八丹幸八手書本38冊)
	※すべて岡山市立中央図書館所蔵